

米国における無人航空機政策の最新動向 2022  
～目視外飛行における安全性の確保及び有人機との空域の共有に向けた取組み～  
第 152 回運輸政策コロキウム ～ワシントンレポート XVI～のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所におきましては、「第 152 回運輸政策コロキウム～ワシントンレポート XVI～」をオンライン配信にて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、ご関心をお持ちの方々に広くご周知いただければ幸いです。

ご参加に当たりましては、大変恐縮ですが、申込み専用 URL からお申込みいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

○第 152 回運輸政策コロキウム～ワシントンレポート XVI

日 時：2022年10月11日（火）10：00～12：00

開催方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

テ ー マ：米国における無人航空機政策の最新動向 2022

～目視外飛行における安全性の確保及び有人機との空域の共有に向けた取組み～

1. 講演およびコメント

講 師：藤巻 吉博 ワシントン国際問題研究所 主任研究員

コメンテーター：鈴木 真二 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授

2. 質疑応答

コーディネーター：山内 弘隆 一般財団法人運輸総合研究所 所長

参加費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/collo221011>

（申込期限：10月6日（木）まで）



※お申し込みいただいた方には10月7日（金）に視聴用 URL を送付いたします。

運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

お問い合わせ：一般財団法人運輸総合研究所（担当：川上・松坂）  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD 神谷町ビル）  
TEL：03-5470-8415 FAX：03-5470-8401  
E-mail：collo2@jttri.or.jp HP：https://www.jttri.or.jp/

## 概要：

小型の無人航空機の利用は、コロナ禍に関わらず拡大を続けており、その拡大をサポートするための制度改正が各国で進められている。このような流れを捉え、昨年9月には直近で公表された規則の内容等について報告したところ、その続編として米国での取組みを中心に欧州での取組みについても触れながら、無人航空機政策の最新動向について紹介する。

米国では、昨年6月より目視外飛行の拡大に向けた検討を開始し、専門家による検討委員会の報告書が今年3月に公表された。この報告書では、目視外飛行における安全性の確保と、目視外飛行の拡大に伴い必然的に増加する、有人機（ヘリコプターなど）と同じ空域を飛行する場合（以下、「空域の共有」という。）における対応について勧告が行われている。

本コロキウムでは、上記の報告書の内容について説明するとともに、我が国における目視外飛行の更なる拡大、及び有人機との空域の共有に向けた方策について議論を行う。

## 講師：藤巻 吉博 ワシントン国際問題研究所 主任研究員

2001年に東京大学工学部航空宇宙工学科を卒業、2003年に東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻を修了し、同年に国土交通省に入省。入省後は、航空局を中心として、総合政策局及び自動車交通局においても勤務。航空局では、日本の航空会社が世界に先駆けてボーイング787を導入することに伴い、その安全・環境基準に対する審査を実施したほか、2013年1月に発生した同機のバッテリー発火問題の際には、約2か月にわたり米国連邦航空局（FAA）のシアトル事務所に派遣され、同事務所にてJCABからのリエゾンとして勤務。また、2013年から2019年までの6年間、国際民間航空機関（ICAO）の航空環境保全委員会（CAEP）の騒音ワーキンググループ（WG1）に航空局の専門家として参加。



2020年4月より、運輸総合研究所にて、航空の技術分野（特に安全・環境基準、証明プロセス、超音速機やドローン等の次世代航空機）に関する調査研究に従事している。

## コメンテーター：鈴木 真二 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授

1977年東京大学工学部航空学科卒業、1979年同大学院工学系研究科修士課程修了。

（株）豊田中央研究所を経て、1986年東京大学工学博士取得、同工学部助教授。

1992年Purdue大学客員研究員を経て、1996年東京大学大学院教授。

2019年現職および東京大学名誉教授。専門は、航空機力学、航空イノベーション。

（一社）日本航空宇宙学会会長（第43期）、（一社）日本機械学会副会長（第95期）、

International Council of Aeronautical Sciences (ICAS)会長（2019-20）、（一社）日本

UAS産業振興協議会理事長（2014～）、（一社）航空イノベーション推進協議会代表理事（2018～）、

福島ロボットテストフィールド所長（非常勤）（2019～）、日本学術会議連携会員（2014～）など。

主な著書、『落ちない飛行機への挑戦：航空機事故ゼロの未来へ』（化学同人、2014）、『飛行機物語—航空技術の歴史』（筑摩書房、2012）

